

第2節「創る」～人と地域の夢や希望を実感できるために～ 施策232 子育て支援策の推進

基本事業23202 母子保健対策の推進 (主担当 地域保健課)

三重県版「健やか親子いきいきプランみえ」に基づいて、「子どものころとからだの健やかな発達」「思春期の保健対策の強化と健康教育の推進」を目指して、親と子の総合的な健康づくりに取り組みます。

1 健やか親子支援事業

(1) 未熟児等ハイリスク児訪問指導

平成25年度から養育医療が市町移譲になったことにより、訪問対象は前年からの引き続き支援の必要な児と保護者です。そのため訪問数は大幅に減少しました。地域での支援が必要なため医療機関、児童相談所、各市町母子保健担当者から情報提供のあった児、とその保護者に対して市町と連携して虐待予防の視点も含め育児支援を行いました。

対 象 : 未熟児およびハイリスク児とその保護者
訪問件数 : 延べ28件 (実件数10件)
電話相談 : 延べ20件

(2) 連絡調整及びケース検討会

参加機関 : 医療機関関係者、市町担当者、児童相談所、訪問看護ステーション等支援に関わる関係者
内 容 : 子育て困難ケースに対して情報の共有化と支援の検討
参加回数 : 13回

(3) 思春期健康支援

思春期は、身体的・精神的発達の変化が最も大きいため特有な悩みが多く、その対応が将来の健康に大きく影響を与えることから、健康的な性意識や性行動が身につけられるよう支援しました。

① 健康教育

学校からの相談や依頼に応じて実施しました。

実施件数 : 1件

② 来所、電話相談

思春期の身体やことろに関する相談を随時実施しました。

相談件数 : 延べ4件

③ 関係機関との連携

管内で小中学、高校生を対象に性教育を実践している団体が主催の思春期勉強会へ参加し、教育現場での性教育の実態把握に努めました。

勉強会を通じて産婦人科医や助産師、養護教諭と管内の思春期保健の課題についても共有しました。

参加回数 : 4回

(4) 母子保健体制整備

管内市町母子保健担当者の情報交換やスキルアップを図ることで保健所、市町の役割を明確にし、途切れのない母子保健支援体制を整備しました。

開催日	参加数	内容
第1回 平成25年 7月1日(月)	15人	・母子保健事業についての意見交換会 権限移譲後の問題について 母子保健分野における事業概要 健康福祉部 こども・家庭局 子育て支援課 母子保健班より説明
第2回 平成26年 1月22日(水)	13人	研修会 「エジンバラ産後うつ病質問票の活用について」 講師 三重大学医学部附属病院 母性専門看護師 森實 かおり氏

2 母子保健医療

(1) 養育医療給付

身体の発育が未熟なまま出生し、出生時に諸機能を得るに至っていない未熟児に対して、医療給付を実施しました。

養育医療の給付事業は平成25年4月1日から市町に委譲されました。

そのため25年度申請は平成25年3月に申請があり、4月に承認した1件のみでした。

平成26年3月31日

区分	市町	伊勢市	鳥羽市	志摩市	玉城町	度会町	大紀町	南伊勢町	合計
	申請件数	1,000g未満	0	0	0	0	0	0	0
1,000～1,499g		1	0	0	0	0	0	0	1
1,500～1,999g		0	0	0	0	0	0	0	0
2,000g以上		0	0	0	0	0	0	0	0
合計		1	0	0	0	0	0	0	1

(2) 自立支援（育成医療）給付

育成医療の給付事業は平成25年4月1日から市町に委譲されました。

そのため24年度申請のあった対象者で今年度装具の給付申請のあったものに対して、装具給付を実施しました。

平成26年3月31日

区分	肢体不自由	視覚障がい	聴覚・平衡機能障がい	音声・言語機能障がい	心臓機能障がい	腎臓機能障がい	その他の内臓障がい	合計
件数	1 (1)	0	0	0	0	0	0	1 (1)

() 装具給付 再掲

3 小児慢性特定疾患治療研究事業

小児慢性疾患のうち、下記の11疾患を対象に治療研究費を給付することによって、患者家庭の医療費負担の軽減を図りました。

平成26年3月31日

区分	悪性新生物	慢性腎疾患	慢性呼吸器疾患	慢性心疾患	内分泌疾患	膠原病	糖尿病	先天性代謝異常	血液疾患	神経筋疾患	慢性消化器疾患	合計
件数	23	28	3	29	66	8	20	8	16	8	10	219

4 特定不妊治療費助成事業

指定された医療機関において、特定不妊治療（体外受精か顕微授精）を受けた夫婦を対象に、治療費の一部を助成しました。

平成26年3月31日

申請数	承認	不承認
165	165	0